

Oracle® Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1

基本 CLI コマンドリファレンス



Part No: E35742-01
E35742-01

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
関連ドキュメント	5
ドキュメントのフィードバック	6
製品のダウンロード	6
Oracle ILOM 3.1 ファームウェアのバージョン番号方式	7
サポートとアクセシビリティ	8
Oracle ILOM 3.1 の基本 CLI コマンドリファレンス	9
システム情報および管理	9
ホストおよびシステム制御	10
Oracle ILOM の初期設定	10
システム監視およびステータス	11
システムインベントリ	12
Oracle ILOM のメンテナンス	12
Oracle ILOM 構成管理	12
Oracle ILOM ヘルプ	13

このドキュメントの使用法

この CLI リファレンスでは、Oracle Sun サーバーおよび Oracle Sun ブレードシャーシシステムをリモートで管理するために使用できる基本コマンドのリストを示します。

このガイドは、Oracle ILOM 3.1 ドキュメントライブラリのその他のガイドと一緒に使用してください。このガイドは、技術者、システム管理者、Oracle 認定サービスプロバイダ、およびシステムハードウェアの管理経験があるユーザーを対象としています。

- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「ドキュメントのフィードバック」
- 6 ページの「製品のダウンロード」
- 7 ページの「Oracle ILOM 3.1 ファームウェアのバージョン番号方式」
- 8 ページの「サポートとアクセシビリティ」

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ	http://www.oracle.com/ pls/topic/lookup?ctx=ilom31
システム管理、単一システム管理 (SSM) のセ キュリティー、および診断のドキュメント	www.oracle.com/technetwork/documentation/ sys-mgmt-networking-190072.html
Oracle Hardware Management Pack 2.2	http://www.oracle.com/ pls/topic/lookup?ctx=ohmp

注意: 使用している Sun サーバープラットフォームに固有の Oracle ILOM 3.1 のドキュメントについては、サーバーに提供されている管理ガイドの Oracle ILOM のセクションを参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントについてのフィードバックをお寄せください:

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

製品のダウンロード

各 Sun サーバーまたは Sun ブレードシャーシシステムの Oracle ILOM 3.1 ファームウェアの更新は、My Oracle Support (MOS) Web サイトからダウンロードできるスタンドアロンのソフトウェア更新プログラムによって入手できます。このようなソフトウェア更新プログラムを MOS Web サイトからダウンロードするには、次の手順を参照してください。

▼ 製品のソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
- 4 「検索」タブの上部にある「パッチ検索」パネルで、「製品またはファミリー(拡張検索)」を選択します。
- 5 「対象製品」リストボックスで、製品名の全体または一部を入力し、一致する製品のリストがリストボックスに表示されたら該当する製品名を選択します。
製品名の例: Sun Fire X4470 M2 Server または Sun Enterprise SPARC T5120。
- 6 「リリース」リストボックスで
 - a. 「リリース」リストボックスの下向き矢印をクリックして、一致する製品のフォルダのリストを表示します。
1つまたは複数の製品フォルダのアイコンのリストが表示されます。
 - b. 製品フォルダのアイコンの横にある三角形(>)をクリックして、ソフトウェアリリースのリストを表示します。
 - c. 目的のソフトウェアリリースを選択します。
例: X4470 M2 SW 1.4 または Sun SPARC Enterprise T5120。

- 7 「検索」をクリックします。
「パッチ検索結果」画面が表示され、パッチ名のリストと説明が示されます。
- 8 「パッチ検索結果」画面で、目的のパッチ名を選択します。
例: X4470 M2 Server SW 1.4.ILOM and BIOS (Patch) または Firmware SPARC Enterprise T5120 Sun System Firmware 7.1.3.2。
- 9 パッチ名の選択で、次のいずれかのアクションをクリックします:
 - README - 選択したパッチの Readme ファイルを開きます。
 - 計画に追加 - 選択したパッチを新しい計画または既存の計画に追加します。
 - ダウンロード - 選択したパッチをダウンロードします。
 - コピー - 選択したパッチの詳細をメモリーにコピーします。

Oracle ILOM 3.1 ファームウェアのバージョン番号方式

Oracle ILOM 3.1 では、使用しているサーバーまたはシャーシ監視モジュール (CMM) で実行しているファームウェアバージョンを識別しやすいファームウェアバージョンの番号方式を使用しています。この番号方式では、5つのフィールドがある文字列を使用しています。たとえば、a.b.c.d.e となり、ここでは:

- a - Oracle ILOM のメジャーバージョンを示します。
- b - Oracle ILOM のマイナーバージョンを示します。
- c - Oracle ILOM の更新バージョンを示します。
- d - Oracle ILOM のマイクロバージョンを示します。マイクロバージョンは、プラットフォームまたはプラットフォームのグループ単位で管理されます。詳細は、使用しているプラットフォームの製品ノートを参照してください。
- e - Oracle ILOM のナノバージョンを示します。ナノバージョンは、マイクロバージョンの増分反復です。

たとえば、Oracle ILOM 3.1.2.1.a の意味は、次のとおりです:

- Oracle ILOM 3 はメジャーバージョンです
- Oracle ILOM 3.1 はマイナーバージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2 は2つ目の更新バージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2.1 はマイクロバージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2.1.a は3.1.2.1のナノバージョンです

ヒント - 使用している Sun サーバーまたは CMM にインストールされている Oracle ILOM ファームウェアバージョンを確認するには、Web インタフェースで「System Information」 > 「Firmware」の順にクリックするか、コマンド行インタフェースで `version` と入力します。

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com 聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

Oracle ILOM 3.1 の基本 CLI コマンドリファレンス

このセクションでは、一般的な Oracle ILOM 3.1 CLI コマンドについて説明します。

このセクションでは、次のコマンドのカテゴリについて説明します:

- 9 ページの「システム情報および管理」
- 10 ページの「ホストおよびシステム制御」
- 10 ページの「Oracle ILOM の初期設定」
- 11 ページの「システム監視およびステータス」
- 12 ページの「システムインベントリ」
- 12 ページの「Oracle ILOM のメンテナンス」
- 12 ページの「Oracle ILOM 構成管理」
- 13 ページの「Oracle ILOM ヘルプ」

システム情報および管理

表1 システム情報および管理コマンド

タスク	CLI コマンド
システム情報を表示する	<code>show /System model part_number serial_number</code>
Oracle ILOM バージョンを表示する	<code>version</code>
x86 BIOS バージョンを表示する	<code>show /System/BIOS version</code>
SPARC システムファームウェアのバージョンを表示する	<code>show /System sys_fw_version</code>
SPIP アドレスを表示する	<code>show /System ilom_address</code>
SP MAC アドレスを表示する	<code>show /System ilom_mac_address</code>
ホスト MAC アドレスを表示する	<code>show /System host_primary_mac_address</code>
「Locator」LED をオンにする	<code>set /System locator_indicator=on</code>
「Locator」LED をオフにする	<code>set /System locator_indicator=off</code>

ホストおよびシステム制御

表2 ホストおよびシステム制御コマンド

タスク	CLI コマンド
サーバーの電源を入れる	<code>start /System</code>
サーバーの電源を切る	<code>stop [-force] /System</code>
サーバーの電源を再投入する	<code>reset /System</code>
ホストコンソールストリームを Oracle ILOM にリダイレクトする	<code>start /HOST/console</code>
次のブート時に PXE ブートを強制的に実行する (x86 のみ)	<code>set /HOST boot_device=pxe</code>
次のブート時に CD-ROM または DVD で強制的にブートする (x86 のみ)	<code>set /HOST boot_device=cdrom</code>
次のブート時に追加の x86 診断を有効にする	<code>set /HOST/diag state=enabled</code>
SPARC 診断状態を有効にする (デフォルト値)	<code>set /SYS keyswitch_state=diag</code>

Oracle ILOM の初期設定

表3 Oracle ILOM の初期設定コマンド

タスク	CLI コマンド
ネットワーク構成を表示する	<code>show /SP/network</code>
静的 IPv4 アドレスを構成する	<code>set /SP/network pendingipdiscovery=static pendingipaddress=address pendingipnetmask=netmask pendingipgateway=address commitpending=true</code>
静的 IPv6 アドレスを構成する	<code>set /SP/network/ipv6 state=enabled pending_static_ipaddress=ipv6address set /SP/networkcommitpending=true</code>
DHCP を使用するように Oracle ILOM を構成する	<code>set /SP/network pendingipdiscovery=dynamic commitpending=true</code>
Oracle ILOM ホスト名を設定する	<code>set /SP hostname=hostname</code>
システム識別子を設定する	<code>set /SP system_identifier=identifier</code>
すべての権限を持つユーザーアカウントを作成する	<code>create /SP/users/newusername role=aucro [password=password]</code>

表3 Oracle ILOM の初期設定コマンド (続き)

タスク	CLI コマンド
オペレータ権限を持つユーザーアカウントを作成する	<code>create /SP/users/newusername role=cro [password=password]</code>
読み取り専用ユーザーアカウントを作成する	<code>create /SP/users/newusername role=o [password=password]</code>
ユーザーアカウントを削除する	<code>delete /SP/users/username</code>
DHCP から取得した DNS サーバーをオーバーライドする	<code>set /SP/clients/dns auto_dns=disabled nameserver=nameserver1,nameserver2 searchpath=searchpath1,searchpath2</code>
Oracle ILOM の日時を設定する	<code>set /SP/clock datetime=MMDDhhmmYYYY.ss</code>
NTP サーバーを構成する	<code>set /SP/clients/ntp/server/1 address=address set /SP/clock usntpserver=enabled</code>
外部シリアルポートの速度を変更する	<code>set /SP/serial/external pendingspeed=9600 19200 38400 57600 115200 commitpending=true</code>

システム監視およびステータス

表4 システム監視およびステータスコマンド

タスク	CLI コマンド
Oracle ILOM イベントログを表示する	<code>show /SP/logs/event/list</code>
SNMP トラップの宛先を構成する	<code>set /SP/alertmgmt/rules/1 type=snmptrap snmp_version=1 destination=ipaddress destination_port=port community_or_username=community</code>
システム全体の状態を確認する	<code>show /System health</code>
すべての未解決のハードウェア問題を表示する	<code>show /System/Open_Problems</code>
冷却サマリー情報を表示する	<code>show /System/Cooling</code>
システムの実際の消費電力を表示する	<code>show /System actual_power_consumption</code>

システムインベントリ

表5 システムインベントリコマンド

タスク	CLIコマンド
すべての DIMM を表示する	<code>show -level all -output table /System/Memory/DIMMs</code>
すべての CPU を表示する	<code>show -level all -output table /System/Processors/CPU</code>
すべての電源を表示する	<code>show -level all -output table /System/Power/Power_Supplies</code>
すべてのハードディスクを表示する	<code>show -level all -output table /System/Storage/Disks</code>

Oracle ILOM のメンテナンス

表6 Oracle ILOM のメンテナンスコマンド

タスク	CLIコマンド
Oracle ILOM ファームウェアを更新する	<code>load -source URI /SP/firmware</code>
Oracle ILOM SP をリセットする	<code>reset /SP</code>

Oracle ILOM 構成管理

表7 Oracle ILOM 構成管理

タスク	CLIコマンド
Oracle ILOM の構成を出荷時のデフォルトにリセットする	<code>set /SP reset_to_defaults=all</code>
Oracle ILOM 構成をファイルにバックアップする	<code>dump -destination URI /SP/config</code>
ファイルから Oracle ILOM の構成を復元する	<code>load -source URI /SP/config</code>

Oracle ILOM ヘルプ

表 8 Oracle ILOM ヘルプコマンド

タスク	CLI コマンド
CLI の任意の部分でシステムのすべての CLI ターゲットを表示する	<code>help targets</code>
ターゲットまたはプロパティのヘルプを表示する	<code>help target property</code>

